

文化

今井町の多様な講行事



阪本日出雄

今井町の講

審町時代の町割り、江戸時代の古民家が建ち並ぶ檜原市の今井町。ここでは現在も、多くの講が営まれています。

【日待講】伊勢講で、町内では三十組です。毎年七月十六日に当屋で掛け軸をお祀りし、春日社の神官二人が分担して祝詞を奏上します。お菓子、果物を供えます。

「文化五（一八〇八）年に復活した」との古文書を持つ講があります。かつては講員が、順番に伊勢参りをしていました。

【地蔵講】町内で二十五組ばかり、ご神体は大抵小さな石仏ですが、木像や掛け軸もあります。講の依頼を受けた町内の四力寺のいすれかから僧侶が出向き、それぞれの宗派のお經をあげます。お菓子、果物を供えます。

飛鳥時代に法隆寺や四天王寺という素晴らしいお寺を建てられたので、大工さん

新なら 民俗通信

2 阪本 日出雄

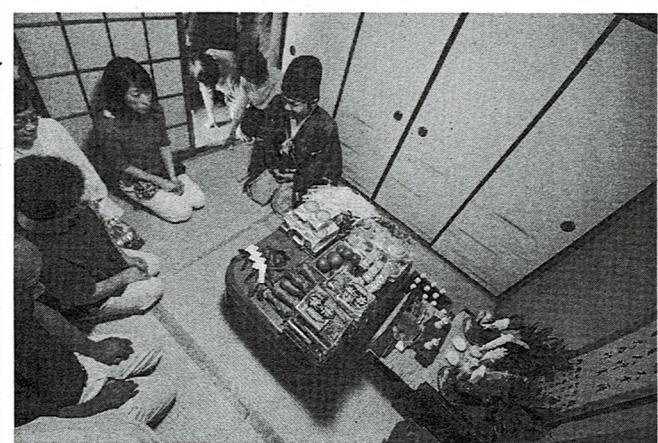
【春日講】今井の産土(うぶすな)社で、神仏分離までは天台宗多武峰(とうのみね)妙楽寺の末寺で、常福寺と一体でした。行事は十月第三十日の秋祭りで、一台のだんじり巡行が慢です。六月三十日の夏祓いの「茅(ち)の輪くぐり」には、多くの人が参加します。

【行者講】旧常福寺の行者堂の役小角(えんのおづぬ)を毎年七月七日、「星祭り」と称してお祀りします。町内の日蓮宗蓮運妙寺の僧侶一人が、護摩焚(こまだ)きをします。護摩木は一本一百円。事前に各家で願い事を書いたものを集めますが、町外に住んでいる子や孫の健康を祈念する護摩木も多く、中々の経営手腕です。

【観音講】旧常福寺の観音堂には、西国三十三カ所の観音像があり、以前は毎月十八日に町内から年配のご婦人が集まり、三十三カ所所札所の御詠歌を上げていきました。今は年一回、五月のみの行事になりました。

【太子講】聖徳太子は、

飛鳥時代に法隆寺や四天王寺とい



今井町(南町第一班)の日待講。(2019年7月16日撮影、筆者提供)

民俗文化学ぶ教材に

に感謝する法会で、檀家が参列して講師として招いた

講が抱える課題

【弁天講】旧勘定銀行(ち南都銀行勘定支店)の頭取が、高野山からの授かった

大師の信仰です。三十年ほど前には、講元が講員から月々の掛け金を集めています。年に一回全員で高野山に一泊二日でお参りします。

半までは毎年三月の初午(はつうま)の日に、町内に日待ち講や地蔵講があ

ったとしても、参加するか行事が行われていました。

【庚申講】町内に庚申(こうしん)の石碑が三基あるので、かつては講がありました。平成の中頃のところですが、平成の中頃に一泊二日でお参りしましたが、現在は行われていません。

【初午稻荷】これは講ではないのですが、平成の前には恒岡一家だけで、泥棒と魔除けのために庚申祭りと称してお祀りしていました。この年中行事がお稲荷様をお祀りしています。

【報恩講】町内淨土真宗の称念寺順明寺の行事で、阿弥陀如来と悉祖親鸞聖人の職人が亡くなつて、遙

かは各家の自由です。講事は毎年の年中行事で季節ごとの食べ物と関連付けられていました。この行事にはこの野菜、この行事にほこの魚など、旬のお供え物が決まっており、

滅びつつある講行事に、信仰やコミュニティ団結以外の意味を持たせるとしたことは何でしょうか。私は無形の民俗文化としての、教材活用ではないかと

思います。今井町は室町時代からの地割の残る古い町で、国の「伝統的建造物群保存地区」に指定されています。町並みは有形文化ですが、同時に住民の暮らしの中には、独特的民俗文化が残っています。

この講事をはじめとする

生活文化を学校教育、社会教育の教材として、今井町内外の老若男女の歴史学習

により、講行事は神仏

の運営によるものですが、神官・僧侶の関わりを期待する傾向にあります。例え

る働きの夫婦には、辛いと

今井の講の特徴

報恩講以外は、住民主体

の運営によるものですが、

神官・僧侶の関わりを期待

する傾向にあります。例え

ば

日待講は、町内春日

地蔵講などは、「子どもが喜ぶから」と戦後に始めた祭りですが、現在は高齢化も進み、子どものい

なる世帯はとても少なく、お祭りする励みに欠けるかも知れません。地蔵講の当屋

に当たれば七月二十二日、二十四日は平日でも自宅に居なければなりません。共

に感謝する法会で、檀家が参列して講師として招いた

講が抱える課題

に感謝する法会で、檀家が参列して講師として招いた